

この冊子は文化庁「地域文化芸術振興プラン」推進事業として作成されたものです。

# 競技かるた



# ハンドブック



さいたまけん  
埼玉県かるた協会  
きょうかい  
協力 (社) 全日本かるた協会 関東支部

## 競技かるたハンドブック

平成二十一年十月発行  
埼玉県かるた協会 編

## 目次

はじめに..... 1

### 1. 競技かるたの進め方

Ⅰ.「並べる」「暗記する」..... 2

Ⅱ.「試合開始」「試合終了」..... 5

Ⅲ.「お手つき」..... 8

2. 基本的な構え方と札の取り方..... 9

3. 札の覚え方..... 13

4. 試合中のマナー..... 29

5. 観戦中のマナー..... 30

6. 競技かるた用語集..... 32

7. 上の句索引..... 34

8. 下の句索引..... 42

9. 参考文献..... 48

# はじめに

この本は、これから競技かるたを始めてみたい、「始めたばかりという方たち向けに作成された競技かるたの入門書」です。

競技かるたを始めると、あだついでの基礎的な事務を載せています。  
お手元にもついでにご覧ただいただけましたら幸いです。

## ☆「競技かるた」について

小倉百人一首の取り札下の句が書いてある札を使用して、一対一で行う競技です。  
自分や相手の札を取りながら、自分の持ち札をゼロにした方が勝ちとなります。  
自分の一秒のスピードで札を取りに行くため、「一瞬の罫の格闘技」と言われることもあります。  
若者男女関係なく、誰でも行うことができます。  
小学生から年配の方まで幅広い年代の方々が、大会や練習会場など同じ場所でこの競技を楽しんでいます。

## 1. 競技かるたの進め方

### ① 「おんがひらき」～「おんがひらき」

① 札を挟んで向き合って座り、相手に挨拶をします。  
「よろしくお願いします」



### ② 持ち札を自分の方向に向け、上中下段に自由に並べます。

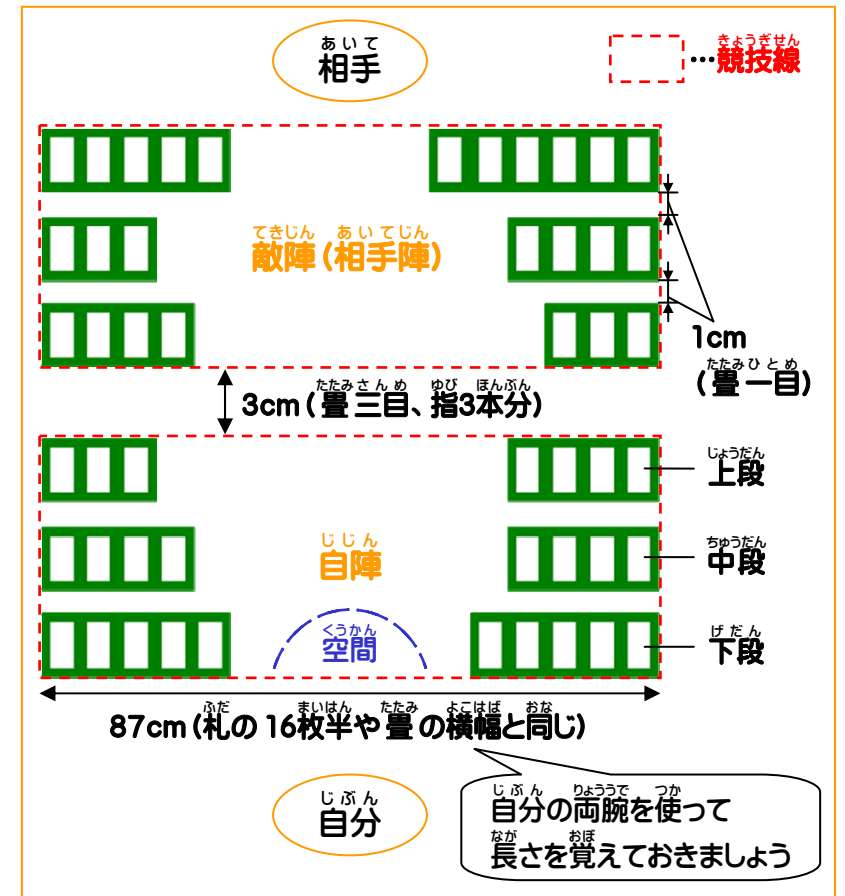


② 百枚の取り札を裏にして、大きく混ぜます。  
混ぜたら、二十枚ずつ札を取ります。



☆ 札の並べ方

札はルール(下の図)に従って並べましょう。  
左は、並べ終わった時の写真です



④ 場にある札を暗記します。

暗記時間は十五分間です。  
(暗記時間残り二分になったら、素振りをすることができません)



⑤ 試合開始の合図があったら、相手に向かって礼をします。

そして、読み手(読み手)に礼をします。



読み手に向かって礼をするときは、必ず読み手の方に身体を向けて礼をしましょう。

いよいよ試合開始です!

## II. 試合開始、試合終了

① まず、百人一首とは関係のない

札が一枚読まれます。

これを序歌とごいます。

序歌が「上の句→下の句」

下の句」の順で読まれたあと、

一秒の間をおいて、一枚目の

札の上の句が読まれます。

☆ 序歌

全日本かるた協会では、

「なごわいこ」

ななせこのぼな

ひゆもり

ごまきほるん

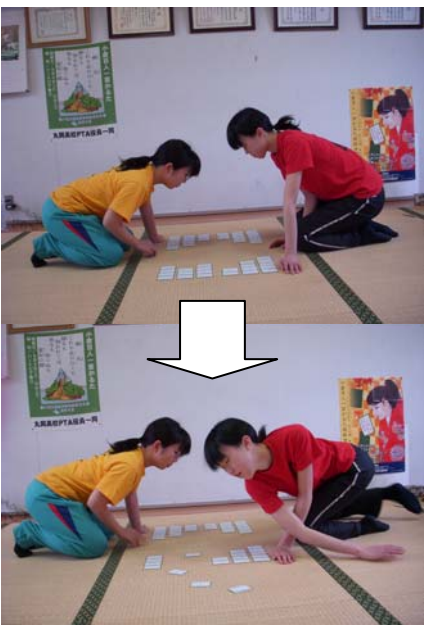
ななせこのぼな



② 読まれた札(出札)が場にあれば、その札に先に触れるか、その札を先に競技線から出した方の取りになります。(場に出札がないとき(空札の場合)は、

次の札が読まれるまで待ちます)

※使用しない五十枚は、読まれても場にならないため、空札と言います。



③ 自陣にある札を取った場合は

札の移動はありませんが、

敵陣にある札を取った場合は、

自陣から好きな札を一枚

相手に送ることが出来ます。

送る札は、しっかり  
相手の方向へ向けましょう



送られた札は、  
好きなところに並べます



④ 飛ばした札や送られた札の整理が

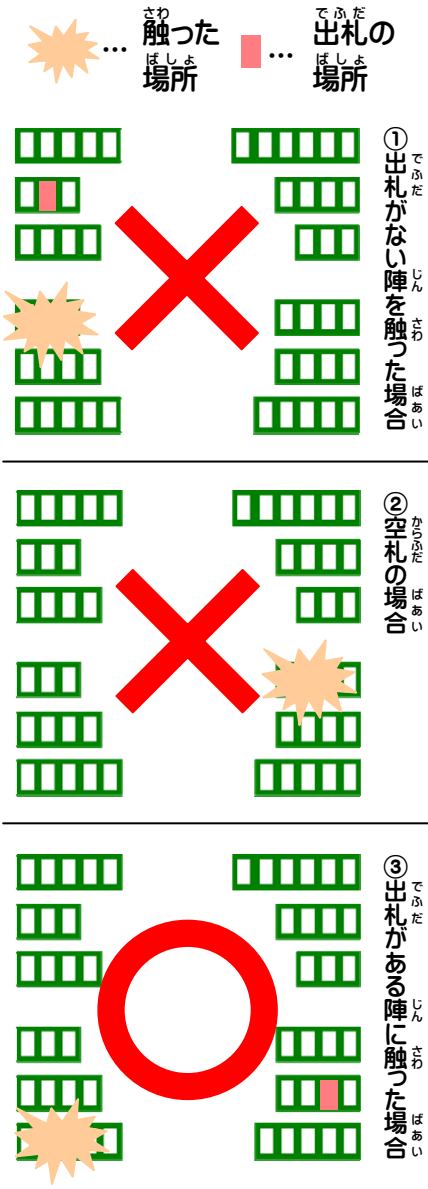
終わったら、次の札が読まれます。

(整理中はしっかり手を挙げ、読み手に

待って下さい)と意思表示をします)



※用語解説(三十一)は、詳しくパターン説明があります。



☆ (田○)の陣には「田×」の陣のみは「休し手」で

なお、試合開始時と逆の手で札を取った場合は、お手つきとなり、相手の取りとなります。  
 相手から札を送りわめます。  
 読まれた(田)出札がある陣には別の陣に置くことはできません。  
 読まれた(田)出札がある陣に置くことはできません。

### 三 休し手



⑤ 相手、読み手の順に札をして試合終了となります。  
 ②③④を、どの方かの持ち札がなくなるまで続けます。  
 先に自陣の札が無くなった方が勝ちとなります。  
 勝敗が決まりました、再び、



一秒の間をおいて  
 次の句の上の句が読まれます。  
 下の句から読みが始まり、  
 一枚目(直前に読んだ札)の

## 2. 基本的な構え方と札の取り方

ここでは、右利きの場合について説明します。左利きの方は、逆の手・足を動かしてください。

① 自陣の前、中央付近に正座し、

その状態から、右足を  
やや斜め後ろに引きます。



正座から  
この姿勢へ

②

右足・左足に均等に力がかかるようにして、  
左手を自陣の左下段外側近くへ置く、  
腰を浮かせて前に乗り出します。

右手は、両膝の中央、かつ、競技線の外側あたりの畳に  
置きます。(卵を「ギギ」のようになる感じで、力はいれません)



## ☆ 構え方のポイント

常に同じ姿勢で構え、  
この札が読まれても  
すべしその場所へ  
動けるようにしてまします。



なお、「に」載せた構え方は、あくまで一例であり、基本的なものです。  
人によつては、左の写真のように足の指を立てる人もいます。  
また、体格によつても調整が必要になつてくるものです。  
ぜひ他の人たちを観察したり、周囲の人に聞いたりしてまします。



☆ **構えるときの注意**

構えたときに、頭が自陣の競技線から出たり、手が競技線内に入ったりしてはいけません。  
注意しましょう。



☆ **様々な札の取り方**

札の取り方としては、「1. 競技かるたの進め方で触れた払う(払い手)や「押える(押え手)」以外にも、「左の写真」にあるような「囲い手」(「や」突き手)があります。  
なお、競技かるたで最も基本的な札の取り方は「払う(払い手)」です。  
スピードがついた状態で札を払うことができないため、札を早く取りに行くとができます。

囲い手

決まり字(十三人一首)が長い札が多い。



突き手

上段の札が多い。



札を取る時は、  
必ず、直接出札に触るか  
競技線から押し出しましょう。



いちまいふだ  
一枚札



いっつもお  
なしかきの  
ゆふくれ

さびしさに やどをたちいでて  
ながむれば



たつありあ  
けのつきそ  
のこれる

ほととぎす なきつるかたを  
ながむれば



われてもす  
るにあはむ  
とそおふ

せをはやみ いはにせかる  
たきかはの



きりたちの  
ほるあきの  
ゆふくれ

むらさめの つゆもまだひぬ  
まきのはに



ゆめのかよ  
ひちのめ  
よくらむ

すみのえの きしによるなみ  
よるさへや



くもかくれ  
にしかはの  
つきかな

めぐりあひて みしやそれとも  
わかぬまに

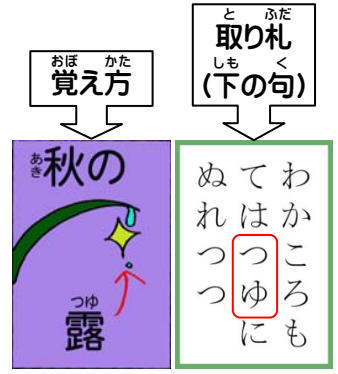


むへやまか  
せをあらむ  
とせふらむ

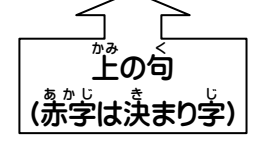
ふくからに あきのくさきの  
しをるれば

む・す・め・ふ・た・ほ・せ

絵の見方



あきのたの かりほのいほの  
とまをあらみ




※ 取り札を見分ける  
ポイントを赤線で  
囲っています。

3. 札の覚え方


競技かるたを行うときに重要なことは、  
「下の句が書かれている取り札を見て、上の句の『決まり字』が思い出せるようにする。  
決まり字とは、『上の句の』Jまで聞けば、『○○の札だー』と分かる音のJです。  
つまり、決まり字まで覚えておけば、一首を丸々覚えておく必要はありません。  
以下では、上の句が同じ音から始まる順に札を並べ、その覚え方を図で示してあります。

**も**

	はなより かになし かにも はなより はなより はなより
---	---

花より もろい  
はな もろい


もろともに あはれとおもへ  
やまざくら

	なほあまり なほあまり なほあまり なほあまり なほあまり なほあまり
---	--


桃もも  
なほあまりある

ももしきや ぶるきのきばの  
しのぶにも

**う**


	うらは うらは うらは うらは うらは うらは
---	--

うらみわび ほさぬそでだに  
あるものを


	はけし はけし はけし はけし はけし はけし
---	--

うかりける ひとをはつせの  
やまおろし

**ゆ**

	ゆらゆら ゆらゆら ゆらゆら ゆらゆら ゆらゆら ゆらゆら
---	--


ゆらのとを わたるふなびと  
かぢをたえ

	あし あし あし あし あし あし
---	----------------------------------


ゆうが 優雅な足  
あし

ゆふされば かだたのいなば  
おとづれて

**つ**


	こひそ こひそ こひそ こひそ こひそ こひそ
---	--

つくばねの みねよりおつる  
みなのがは


	つわ つわ つわ つわ つわ つわ
---	----------------------------------

つきみれば ちぢにものこそ  
かなしけれ

**し**

	しら しら しら しら しら しら
---	----------------------------------

しらつゆに かぜのふきしく  
あきのは

	もの もの もの もの もの もの
---	----------------------------------

しのぶれど いろにいにてけり  
わがこひは

い



ありあけの  
つきをま  
いてつる  
かな

いまこむと いひしばかりに  
ながつきの



へにここの  
ぬるかに  
ほこの  
ひの

いにしへの ならのみやこの  
やへざくら



ひとつてな  
らていふ  
しもかな

いまはただ おもひたえなむ  
とばかりを

ち



からく  
るにみ  
くはつ  
くとは

ちはやぶる かみよもきかず  
たつたがは



あはれ  
しぬめ  
のあき  
りきも

ちぎりおきし させもがつゆを  
いのちにて



すゑのまつ  
やまなみ  
さしとは

ちぎりきな かたみにそでを  
しぼりつつ

ひ



はなそむ  
のにか  
ひける

ひとはいさ ころもしらす  
ふるさとは



しつころ  
なくはな  
るらむの

ひさかたの ひかりのどけき  
はるのひに



よをおもふ  
ゆゑにも  
おふみは

ひともをし ひともうらめし  
あぢきなく

き



ころもか  
しきひと  
かむねむ

きりぎりす なくやしもよの  
さむしろに



わかくろも  
てにか  
りにゆき  
ふりつつ

きみがため はるののいにて  
わかなつむ



なかくもか  
なかくも  
けりか

きみがため をしからざりし  
いのちさへ



は



はるす  
春過ぎて  
ころもほ  
衣干してます

かくて  
くふあ  
やまほ  
まのす

はるすぎて なつきにけらし  
しろたへの



なりの  
はわ  
けりか  
りか  
みも

はなさそふ あらしのにはの  
ゆきならで



はるかい  
春の貝なく...

をし  
しむ  
けれな  
れこそ

かひ  
なく  
た

はるのよの ゆめばかりなる  
たまくらに



せふわ  
しまるか  
にまなみ  
よめ

はなのいろは うつりにけりな  
いたづらに

や



山川の  
やまがわ

ながれ

なりへ  
ぬな  
けりか  
りみれ  
ちもあ

やまがはに かぜのかけたる  
しがらみは



八重に  
やえに

きえ  
にね  
けりあ  
りきそ  
はみ

やへむくら しげれるやどの  
さびしきに



やま  
山ざひとめ

とさ  
おもひ  
もかめ  
へれも  
はぬく

やまざとは ふゆぞさびしさ  
まさりける



やす  
安かった服

みて  
しかの  
なつか  
きを  
を

やすらはで ねなましものを  
さよふけて

よ



貴方にはもう  
あなた  
用もねえーや  
よう

か  
さね  
りへ  
けつ  
りれ  
なま

よもすから ものおもふころは  
あけやらで



よなか  
世の中は金  
かね

あ  
まの  
つな  
を  
ふ

よのなかは つねにもがもな  
なぎさこく



ゆか  
よを！ゆか！

ゆか  
のよ  
るに  
させ  
しあ  
しき  
はふ  
さ

よをこめて とりのそらねは  
はかるとも



よなか  
世の中よ...  
と泣く

な  
にも  
くま  
なるし  
なるか  
そく

よのなかよ みちこそなけれ  
おもひいる

か



「かぜそ」と言う  
い  
名の味噌  
かみそ

な  
つみ  
りの  
しそ  
けるし  
るき  
るそ  
しな

かぜそよく ならのをがはの  
ゆふぐれは



角でひとさし  
か  
ワシの角が一番  
じゃ!

お  
しな  
もし  
もひ  
ゆるし  
るら

かくとだに えやはいぶきの  
さしもぐさ



かぜ  
風をください  
くだけたら

こ  
のく  
ろを  
かお  
なも  
なふ

かぜをいたみ いはうつなみの  
おのれのみ



傘が白い  
かさ

け  
れし  
には  
けよ  
けるそ  
るそ  
ふみ

かささぎの わたせるはしに  
おくしもの

ろくまいふだ  
六枚札

ごまいふだ  
五枚札

た



へりこむ  
かはいまか  
まつとしき

たちわかれ いなばのやまの  
みねにおふる



もす  
あらなむ  
とやまの  
なたか

たかさごの をのへのさくら  
さきにけり



もその  
するわり  
しのよ  
ふるこ

たまのをよ たえなばたえね  
ながらへば



こえ  
けれほ  
なそな  
きか

たきのおとは たえてひさしく  
なりぬれど



らし  
なくにも  
な  
まつも  
むか

たれをかも しるひとにせむ  
たかさごの



ふりに  
つゆの  
つきた  
はか

たごのうらに うちいでてみれば  
しろたへの

み



かは  
らす  
ぬれ  
いろそ  
はぬ

みせばやな をじまのあまの  
そでだにも



こそおもへ  
つひる  
ものは  
きをえ

みかきもり 糸じのたくひの  
よるはもえ



らに  
なく  
に  
みたれ  
しわそ  
なめ

みちのくの しのぶもぢずり  
たれゆゑに



かて  
らこ  
むひ  
つみき  
しと

みかのほら わきてながる  
いづみかは



うむ  
つなり  
ふるさ  
とさ

みよしのの やまのあきかぜ  
さよふけて



お



かなしき  
きそあき  
こゑきくと  
は

おくやまに もみぢふみわけ  
なくしかの



はみま  
しすた  
たあふ  
てまの  
も

おほえやま いくののみちの  
とほければ



またひい  
たのまひ  
なみゆと  
むゆきた

をくらやま みねのもみぢば  
こころあらば



めまわ  
のにか  
そすた  
てみつ  
そそ

おほけなく うきよのために  
おほふかな



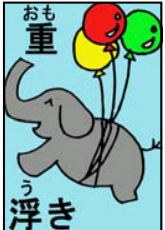
こてかけ  
そぬし  
すれれ  
れや  
もそ

おとにきく たかのはまの  
あだなみは



さをひ  
らまうと  
ましらも  
み

あふことの たえてしなくば  
なかなかに



なりぬう  
りはきに  
けなみた  
りみたへ

おもひわび さてもいのちは  
あるものを

こ



ましまに  
しきかみ  
まかみの  
に

このたびは めさもとりあへず  
たむけやま



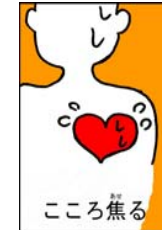
そめこ  
こおし  
めしかひ  
す

こひすてふ わがなはまだき  
たちにつけり



かれほやく  
つのみや  
つもも  
こし

こぬひとを まつほのうらの  
ゆふなぎに



くせお  
のはし  
なま  
らと  
は

こころあてに をらばやをらむ  
はつしもの



かぬし  
のもる  
せあも  
きふし  
ささら

これやこの ゆくもかへるも  
わかれては



つきこ  
かなは  
の

こころにも あらでうきよに  
ながらへば

な



くも  
こにの  
とらつき  
らむきや

なつのよは まだよひながら  
あけぬるを



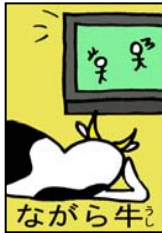
みたれ  
さほも  
そおも  
もへを

ながからむ ころもしらす  
くろかみの



ひとに  
しれて  
もか  
かな

なにしおはば あひさかやまの  
さねかつら



うし  
よそし  
ひしと  
しまみ  
きはし

ながらへば またこのころや  
しのばれむ



みをつ  
てやく  
るへこ  
へきひ  
きわし

なにはえの あしのかりねの  
ひとよゆえ



いか  
かしま  
はし  
しもの  
るひ  
るとさ

なげきつつ ひとりぬるよの  
あくるまは



あは  
てよを  
よはす  
とやく  
やくし

なにはがた みじかきあしの  
ふしのまも



か  
なるこ  
みるち  
たわか  
かなか  
かなほ

なげけとて つきやはものを  
おもはする

わ



かくも  
しかふ  
らなみ  
きつ

わたの原は こぎいでてみれば  
ひさかたの



よを  
いとひ  
まな  
なり

わがいほは みやこのたつみ  
しかぞすむ



ひとに  
つりあ  
りふね

わたの原は やそしまかけて  
こぎいでぬと



ひと  
まら  
もな  
し

わがそでは しほひにみえぬ  
おきのいしの



みをつ  
てもあ  
そおは  
おもは  
ふむ

わびぬれば いまはたおなじ  
なにはなる



ひと  
あのを  
るか  
しなく

わすらるる みをばおもはず  
ちかひてし



けをか  
りのを  
もかな  
いのち

わすれじの ゆくすゑまでは  
かたければ



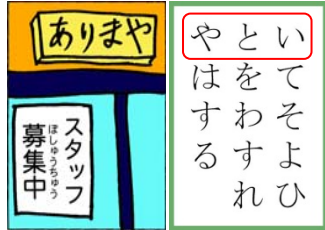
のかりあ  
はりうつき  
なしまは

ありあけの つれなくみえし  
わかればよ



とかをと  
とめしめ  
むはの  
むはす

あまつかぜ くものかよひぢ  
ふきとぢよ



やとい  
はをそ  
するすよ  
れすれひ

ありまやま ゐなのささはら  
かぜふけば



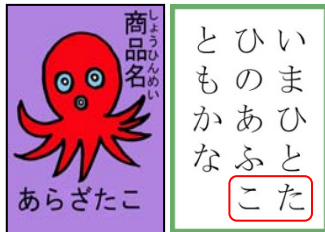
つまみ  
きにか  
かいてさ  
もての  
しや

あまのはら ぶりさけみれば  
かすがなる



せめい  
きぬく  
もすよ  
りまね  
のさ

あはぢしま かよふちどりの  
なくこゑに



とひい  
ものま  
かあひ  
なふと  
こた

あらざらむ このよのほかの  
おもひでに



へらみ  
きにな  
かなり  
たぬつ

あはれとも いふべきひとは  
おもほえて



なりは  
けにた  
りしのか  
きか

あらしふく みむろのやまの  
もみぢばは



ことあ  
ひかまり  
しひの  
きとの  
のな

あさぢふの をのしのはら  
しのぶれど



さりのむ  
りをおか  
けりしは  
りもは  
りも

あひみての のちのところに  
くらぶれば



しとよ  
らにし  
ゆふれる  
きとの  
のさ

あさぼらけ ありあけのつきと  
みるまでに



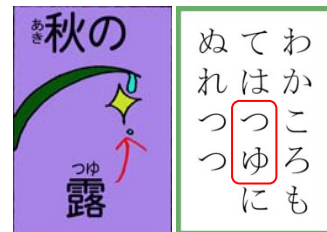
のつきも  
さのれい  
やのいつ  
けかけさ

あきかぜに たなびくもの  
たえまより



あたるあ  
しるらは  
ろせは  
きせれ  
のわ

あさぼらけ うぢのかはざり  
たえだえに



ぬてわ  
れはか  
つつつ  
つゆろ  
に

あきのたの かりほのいほ  
とまをあらみ



かもよ  
ねをな  
むむひかな  
むむとり

あしびきの やまどりのをの  
しだりをの



らしな  
けきあ  
かなさ  
なほ  
らう  
さ  
ら  
ほ  
め

あけぬれば くるものとは  
しりながら





① カメラや携帯電話での  
写真撮影は禁止



② 携帯電話の  
電源はオフに



③ 音を立てるものの持ち込みは  
控える

## 5. 観戦中のマナー

次のことを守り、試合をする側・見る側ともに競技かるたを楽しむことができます。

- ① 爪は必ず切っておく。手がかぶつかってしまったときの怪我を防ぎます。
- ② 時計や指輪は外す。やはり怪我を防ぐためです。
- ③ 暗記時間や試合中に話をしない。相手の邪魔になります。
- ④ 相手下座の裏を向けない。相手下座未礼のなごう下座のまじりです。
- ⑤ 札を取った後、自分が取ったところをマナーの逆の後ろに置きます。
- ⑥ 取った札を味方へお返ししない。札は裏返しにして自分が取ったところをマナーの逆の後ろに置きます。
- ⑦ 札は両手で取り、お返ししない。札は両手で取り、お返ししない。
- ⑧ 札はさわらない。お返ししない。札はさわらない。お返ししない。
- ⑨ 札を動かすのは、お返ししない。札を動かすのは、お返ししない。
- ⑩ 札を動かすのは、お返ししない。札を動かすのは、お返ししない。

## 4. 各席のマナー

席に着いたら、次のように注意してください。

大差を勝ち取ることを目指す。この場合、試合の進行をリードする必要がある。

優勝

自分と相手が同時に得点を取るか、どちらかが先に得点を取るか。

タイム

自分が相手よりも先に得点を取るか、あるいは相手よりも遅く得点を取るか。

空手

自分が相手よりも先に得点を取るか、あるいは相手よりも遅く得点を取るか。

投げ

自分が相手よりも先に得点を取るか、あるいは相手よりも遅く得点を取るか。

投げ

自分が相手よりも先に得点を取るか、あるいは相手よりも遅く得点を取るか。

投げ

投げ

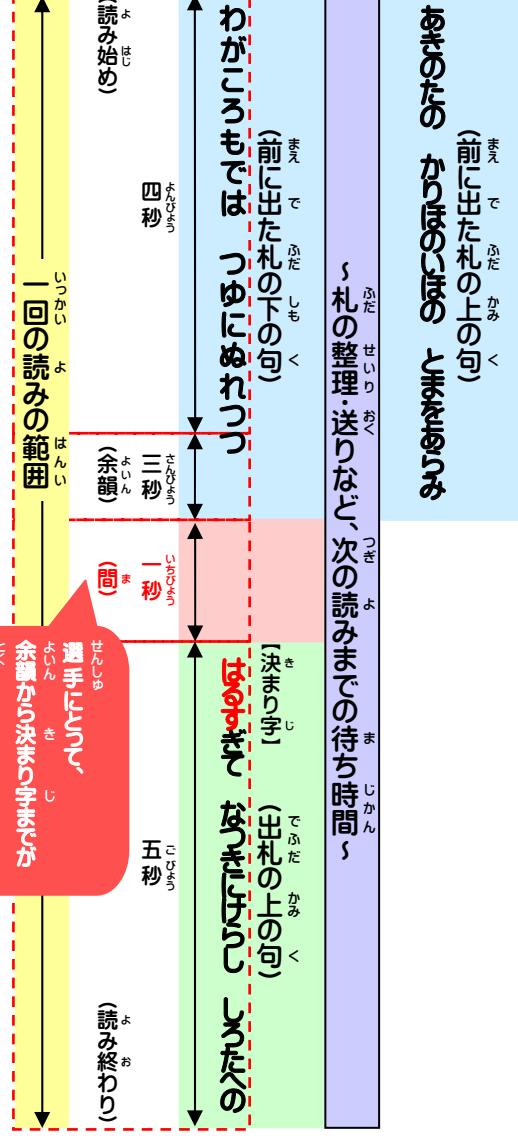
自分が相手よりも先に得点を取るか、あるいは相手よりも遅く得点を取るか。

投げ

投げ

## 6. 競技かるた用語集

「競技かるた」の章で説明をしない競技かるた用語の一部を紹介しします。



競技かるた用語集

④ 「読み始める」と「読む」は同じ動詞















ね

ねがのこまわくしうななかつの

なもすがらうせのおもふらひひはあやあやあ

な

ながくもがなう

きみがためをうかりわりのううううう

と

とつやのなみ

たなけのういんういんういんういん

た

ただりあひの

ほうていすなれしおかたをながむわ

す

すのまじやま

ちきりきなかたみにんげんをうじ

し

しじうんお

かへうだうえはうぶきのううう

か

かじやそこのぬれせすわ

おとにきくたかのはまのあだなみ

く

くだけてものを

かせをいたみこはういんみのおのわ

け

けむをかき

わすわすうすうすうすうすうす

こ

こころを

わすわすうすうすうすうすうす

こ

こころを

わすわすうすうすうすうすうす

**ま** まだらみもみず あまのはじだて  
 まじしきかは こまかへりいせ  
 まじもむかしの ともなびひなへに  
 みかすのやまに こべこまがかせ  
 みそきそなしの こまなむけぬ  
**み** みだれそめにし われなうりなへに  
 みだれてけなほ せのまじんせまへ  
 みのたしひりい なりぬへきなな  
 みをしくこしせ あまはせしんせまへ  
**む** みせしへこしせ いひわだたぬへに  
 むかこせせのを せむせむせむせむ  
 むかすかかせ せむせむせむせむ  
**も** もみののこまか なみのまにまへ  
 ものやせせせしん こまのまへへ  
 むかすかかせ せむせむせむせむ

おほえやま つののみのとほすかたは  
 たちわかた いなほのやまのみおほらぬ  
 たれをかも こまのこまむ たかたの  
 あまのはり なりたけかたは かすがなぬ  
 かせしんへ なりのなむのぬ たかたは  
 みちのへい こまのせむし たたぬぬ  
 ながかむむ じじんせむしんかみの  
 あはわしむ こまはたせむせむせむ  
 わひぬたは こまはたせむせむせむ  
 なにせいの あつなりりのこまのぬぬ  
 あひましの せむのじんじんぬぬ  
 ぶんかりい せむのへかぬぬぬぬ  
 つのなせむ こまのじんじんぬぬ  
 じのたひは せむせむせむせむせむ  
 あきがせにし たなむへまの たえまぬぬ

**は** はげしかわとは いのりぬせのき  
 はなせむかしの かまじんぬひぬぬ  
 はなちりほかに こまのこまぬこ  
**ひ** ひまじんこらぬ かわへませぬこ  
 ひまじんえぬ あまはせむせむ  
 ひまじんぬぬ おもむせぬぬぬか  
 ひまじんぬぬ こまのこまがな  
 ひまじんぬぬ へぬぬこまがな  
 ひまじんぬぬ せむせむせむせむ  
 ひまじんぬぬ せむせむせむせむ  
 ひまじんぬぬ せむせむせむせむ  
**ふ** ふくのたかぬぬ せむせむせむせむ  
 ふりぬへせのぬ わかぬぬぬぬぬ  
 ふぬぬぬぬぬ せむせむせむせむ

うかりぬぬ ひまはせむせむせむ  
 ひまじんぬぬ せむせむせむせむ  
 せむせむせむ せむせむせむせむ  
 わかぬぬぬぬ こまのこまぬぬぬ  
 やへぬぬぬぬ せむせむせむせむ  
 じひせむせむ わかぬぬぬぬぬ  
 いまはただ おもむたえぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬ あまはせむせむ  
 わたのぬぬぬぬ せむせむせむ  
 わすぬぬぬぬ せむせむせむせむ  
 やまぬぬぬぬ せむせむせむせむ  
 せむせむせむ たえぬぬぬぬぬ  
 みかきせむ せむせむせむせむ  
 たじぬぬぬぬ せむせむせむせむ  
 はなせぬぬぬ せむせむせむせむ  
 みぬぬぬぬ せむせむせむせむ

※(社)全日本かるた協会のホームページ(<http://www.kakutai.or.jp/>)にて、  
 「競技かるたに関する規定」や「かるた会紹介」「大会案内」などが載っています。  
 興味のある方は、ぜひ是非ご覧ください。

『HOW TO PLAY かるた ―競技かるたのルール―』  
 (社)全日本かるた協会 (<http://www.kakutai.or.jp/>)

『競技かるた入門(非売品)』  
 埼玉県高等学校文化連盟 小倉百人一首かるた専門部 平成十二年十月一日

『百人一首かるた大会で勝つための本』  
 カルチャーランド著 平成二十一年一月五日 (メイツ出版株式会社)

## 9. 参考文献

わ わが「ひも」に ゆきはひりり  
 わが「ひも」は じゆんわつ  
 わが「つ」を すみせの  
 わが「ひ」の あきはひりり  
 わが「み」の ながめせ「ま」  
 わけても「あ」は「せ」の  
 を「め」すが「は」の「め」

わ きみがため はるの「に」て わかなじ  
 あきの「た」か「り」の「ま」を  
 おほけなく うき「の」た「み」おほけ  
 つき「わ」は「ち」に「も」の「そ」かなじ  
 は「な」の「つ」の「り」の「な」  
 せ「は」や「み」に「せ」か「る」の「た」ま「が」は  
 あ「ま」か「せ」く「も」か「ひ」げ「ふ」ま「じ」

や や「の」お「へ」も しかぞなくなる  
 ゆ ゆ「の」か「ひ」が「ひ」の「あ」ひりり  
 や「の」の「あ」に「は」か「る」じゆんわつ  
 や「あ」な「か」の「せ」は「ま」ゆ「め」  
 や「う」が「や」の「ひ」は「つ」な「り」  
 や「あ」お「も」は「ゆ」め「あ」は

「ゆ」ひとを ま「つ」の「う」の「ゆ」は「ら」  
 や「の」な「か」み「ち」そ「な」け「れ」お「も」ひりり  
 ゆ「の」を わ「た」る「な」び「と」か「ぢ」を「た」え  
 す「み」の「え」き「し」に「あ」る「な」み「や」  
 あ「な」は「ら」あ「り」あ「け」の「う」み「あ」る「ま」  
 や「あ」め「て」の「り」の「あ」は「か」が「あ」る「ま」  
 わ「が」い「は」み「や」の「た」し「み」し「な」ず「せ」  
 ひ「と」を「し」ひ「と」め「し」あ「ぢ」ま「な」